

「思いは広がる」

高松市立庵治第二小学校 六年 河野 茉莉花

私は大島にある高松市立庵治第二小学校に通う、たった一人の小学生です。今年度の三月、私が卒業すると学校は休校になってしまいます。

大島には、国立療養所大島青松園があり、ハンセン病回復者（入所者）のみなさんが暮らしています。私は、小さいころから入所者のみなさんに見守られて育ってきました。五年生でハンセン病の歴史や入所者さんの思いについて学び、つらい過去があったと知りました。学習が進むにつれて、私は「差別をすることはおかしい。みんなに差別をしてはいけないという心をもってほしい。」と思うようになりました。でも、「一人でたくさんの人に伝えていくことが本当にできるのか。私の思いを分かってくれる人はいるのだろうか。」と不安になってきました。そこで、私は二つのことに挑戦してみることにしました。

まず、ハンセン病について正しい知識を伝えるために、冊子「ハンセン病ってDo you Know?」を作りました。入所者さんと交流したり、大島青松園の園長さんや職員の方にインタビューをしたりしてやっと完成しました。島に来る小学生のみんなに読んでもらい、勉強に役立ててもらっています。「子ども目線で書かれていて分かりやすいよ。」という感想をもらい、作ってよかったと思いました。私の思いや正しい知識が伝わったのかな、と実感しました。

次に、大島のすぐ近くに住む高松市立庵治小学校の六年生のみんなに協力してもらいたいと考えました。五月の始め、総合的な学習の時間の授業で、大島や青松園の紹介をさせてもらいました。みんなが一生けん命聞いて質問をしてくれました。大島に興味をもってくれたのがうれしかったです。その後、庵治小のみんなが大島に来てくれました。一緒に入所者さんのお話を聞いたり、「納骨堂」や「風の舞」を私が案内したりしました。

そうやって勉強したことを「みんなで人権を考える会」で、庵治小のみんなと一緒に発表しました。サンポートホールにたくさんの方が来ていました。今まで何度もステージで発表をしたことはありましたが、いつも一人だったので、台詞を言うだけで精一杯でした。でも、今回はみんながいたので心強かったです。「ハンセン病問題だけでなく、私たちの周りには様々な差別をなくし、明るい社会を作っていきましょう。」と、みんなで言ったことを私はずっと忘れません。庵治小のみんなと私の思いがぴったり重なっていると感じたからです。いつの間にか、みんなと一緒に思いを伝えるなかまになっていました。

二つの挑戦を通して、始めは私一人の思いだったものが伝わり、広がっていることを感じることができました。強い思いは伝わっていく。だから、私は差別をしてはいけないということを伝え続けていきたいと思います。